

『夏の夜の夢』

序言

田舎では季節で夢の値打ちを決める。俗語に“春の夢は犬の屁の如し”と言ひ、それが全く価値がないことを言うのである。冬の夢は比較的確かだが、“冬夜”（冬至の前日）のは最もあてにできる。夏と秋の夢の値打ちは、たぶん有るか無きかの間にしかない。仏書では“夢に四種あり、一に四大不和の夢、二に先見の夢、三に天人の夢、四に想夢”ⁱ と言ふ。後の二種は真実だが、前の二種は虚にして実ならず。わたしが今覚えているのは、天人が示現する天人の夢、あるいは福德罪障を予告する想夢ではなく、また決して“昼間に見たことは、夜は夢に見る”先見夢でもなく、当然四大不和の夢の一種に限られ、俗語に言う“めちやくちやに転倒した夢”である。だいたいあらゆる顛倒した事は、すべて人の注意を引き、記録する価値がある。例えば中国の今の新聞紙上に記された政治や社会の重要ニュースは、どれ一つとして顛倒してさらに顛倒を重ねないものはあるだろうか。だからわたしも例を引いて、夏の夜の乱夢を手当たり次第に記していこう。だが顛倒しているからには、虚にして実ではない。その中には当然なんらの奥義が含まれるわけはなく、ご苦勞にも“太人”ⁱⁱ に占ってもらうには及ばない。どうせ占ったところで何も出てきはしないのだから。——しかし占うなら、いい加減に解説はつけられる。だが占ってでた禍福については、わたしは責任を負いかねる。

※初出：1922年8月19日『晨报副刊』

ⁱ 仏書は『善見律毘婆娑』十八卷（大正大蔵 24） 四大不和 地水火風よりなる人身が調和しない、つまり病気になること。

ⁱⁱ 「太人」つまり「大人」 『詩経』小雅「斯干」に「大人占之」とあり、集伝に「大人は大卜の属、占夢の官なり」と言う。